

## 質問者



植田 喜晴 議員

## 問

多くの住民は今回の合併を望んでいない

合併のアンケートの結果について町長は、「8割近くが合併の必要性を感じていることが判り、合併は必要との思いを強くした」としている。ところが住民からは「松前町は合併する理由はなく合併で良くなるとは思えない」「松前町がどうなるのか心配」など今回の合併について疑問と不安の声を多く聞く。それは、一つには、アンケート結果について、すぐ必要とせずれば必要を一緒にした判断に無理があった。二つは、「サービスの水準は高い方に、負担は低い方に」必ずしもならない。地方交付税は「合併した方が多く減らされる」「財政力の高い松前町が面倒を見る立場になる」などが判明したこと

によると思われる。町長の判断とは逆に8割近くの住民が合併しない方がいいと考えていると思う。町長は住民の思いをどのようにつかんでいるかお聞きします。

## 合併は町の将来像を示し住民の判断で

町長は町の将来像について、「合併は相手のあること協議して決まってくるもの」と言われる。それは協議の結果であって、協議に臨むには、町づくりの将来像を住民に示して、その実現に向けて協議することが重要です。松前の町をどのような町にするのか将来像を住民に示すことを求めます。

合併の是非については、将来のまちづくりを具体的に示し、住民の直接投票による結果をまちづくりの方向とするよう求めます。

## 答

総合的に勘案し

合併を選んだ

答弁 白石町長

去年の4月以降、住民のいろんな声を聞き、アンケートもおこない住民の意見を自分

なりに聞きました。そして国や県、あるいは周辺の動き、住民の声など総合的に勘案して合併という方法を選びました。松前町には町独自の将来像があり、他の市や町も同じです。それらを十分踏まえて、合併する市や町が将来どのような新しいまちであればいいのか協議を進めている。新市の将来構想が明らかになる段階において住民に直接説明し、声を聞く機会を設けたいと思います。

合併の可否を問う住民投票は、現段階で実施する考えは持っていません。

## 問

松前町地域保健・福祉計画の策定を

今後の高齢社会への対応は、高齢者が地域社会と関係を持ちながら地域で住み続けられることができる保健・福祉サービスのネットワークをつくるのが大事です。

具体的な施策は、地域社会の状況や特性に応じて地域住民によって決定されることが大事です。そのための松前町地域保健・福祉計画の策定を求めます。

## 答

県のガイドラインが示されれば計画策定の方向で取り組み

答弁 白石町長

地域福祉計画は、高齢者や障害を持つ方を含め、あらゆる方が地域で自立した生活が送れるよう、地域で支え合う福祉サービスのシステムをつくるものです。県は14年度中にガイドラインを策定すると聞いています。このガイドラインが示された後、住民の意見や地域の特性を反映した計画策定に向け取り組みます。

## 問

郷土歴史資料館の建設を

全国どの地域にもそこに暮らしてきた人々の営みが永遠とつづき、受け継がれ伝えられてきた郷土の歴史があります。当町の先人の営みを将来に伝え残すために、郷土歴史資料館の建設を求めます。

## 答

財政的に建設は困難

答弁 白石町長

町では、これまでの出土品



や民具などの復元、修復、補強などを施し、台帳に整理しており、今度とも考古資料の収集につとめます。

郷土歴史資料館の建設については、整理作業が終了した段階で整備検討委員会等をつくり検討したいと考えています。ただ、建設には国・県の補助制度はなく町単独の建設は財政的に非常に難しく、それまでは公民館、文化センターなどで公開したいと考えています。

ほかに「障害者支援費制度」について質問しました。